

能登半島地震の衝撃 ―地震を正しく恐れ、適切に備える！―

東海大学海洋研究所・客員教授、静岡県立大学・客員教授

(一社)日本地震予知学会・会長

長尾年恭

toshi.nagao@tokai.ac.jp**はじめに**

日本が地震国である事はよく知られています。全世界の陸地面積に対する日本の国土面積は 0.25%ほどですが、海域を含む日本周辺では世界の地震の 18%以上が発生しています。2024年1月1日、能登半島で震度7を観測する地震が発生しました(令和6年能登半島地震)。実は能登半島地震は明治以降発生した地震の中で、観測史上最大の内陸地震だったのです。

近い将来大地震が発生する可能性が高い地域

地震学者のコンセンサスとして、佐渡島近海と能登半島の西側で今後 M7 クラスの地震が発生する事が危惧されています。実はこれと同じ状況が、東日本大震災の後の東北地方太平洋沖で起きているのです。東日本大震災では、岩手県沖、宮城県沖、福島県沖、茨城県沖で破壊(プレート間の滑り)が発生し、その結果巨大津波が発生しました。つまり東日本大震災で破壊した場所の外側(北側と南側)では、より歪が蓄積しているのです。

房総半島の危機とは

2024年2月以降、房総半島沖でスロースリップという現象が観測されました。これは5-6年に一度位の割合で発生している現象なのですが、房総半島沖では1912年、1950年、1987年とマグニチュード6.5クラスの被害地震が発生しているのです。2024年はまさに前回の地震から37年が経過しており、今年以降、非常に心配される状況と考えています。

南海トラフ巨大地震とは

南海トラフで本当に巨大地震は発生するのでしょうか？答えは極めて簡単で、「将来必ず発生します」というものです。これは「人は死にますか」という質問と同じとお考え下さい。我々は縄文時代の人とも江戸時代の人とも会った事はありません。つまりこれは避け得ない問題なのです。また富士山も極めて若い火山で、人間で言えば二十歳程度の火山であり、近い将来必ず噴火します。一番可能性の高いのが、次の南海トラフ巨大地震発生後に噴火というシナリオで、実際宝永の南海トラフ巨大地震の直後に富士山は大噴火しています(宝永の噴火)。

今できることの一つ(地下天気図プロジェクト)

まだ正確な地震予知は実現されていませんが、予知に必要な“前兆現象”についてはかなり確実な前兆現象が見つかってきました。今回はそのうちの地震活動に関連するものと、宇宙からの地震予知について紹介いたします。

また私共が地震予知研究の推進のために東海大学発のベンチャーとも位置付けられる(株)DuMAの地下天気図プロジェクトについても紹介させていただきます。

地下天気図とはいわば天気予報に必要な「天気概況」に相当するもので、現在の地震活動をあたかも天気予報の低気圧と高気圧といった表現を用いて解説したものです。

さらに講演では、地震被害を軽減するために最も必要な耐震補強の重要性についても紹介させていただきます。

南海トラフ巨大地震は「想定済」の危機であり、日本発の世界恐慌のきっかけになる可能性も存在します。経済災害としての地震という視点を持つ事が極めて重要と考えます。



今回使用した資料抜粋



DuMA トップページ